



活動報告

知的スポーツ，主張のラリー ～エネルギー・資源学会 サマーワークショップ2014に参加して～

～ Report of Summer Workshop 2014～

小 澤 暁 人*
Akito Ozawa

1. はじめに

2020年夏季オリンピックの開催都市が東京に決定してからおよそ1年となる2014年9月1日(月)～2日(火)、「東京2020を目指したエネルギー事業案を競う」をテーマに今年度のサマーワークショップが開催された。東京五輪メイン会場となる新国立競技場(予定地)から車で15分、東京大学駒場リサーチキャンパス生産技術研究所が私たちの競技場所である。学生や若手企業人・研究者など37名がワークショップに参加した。

「知的スポーツ」とも呼ばれるディベート大会をメインイベントとして、講演と見学も盛り込まれた充実した構成であった(表1参照)。ディベート大会では、商社員になりきって2020年に東京で展開する新規事業を提案した。参加者は4グループに分かれ、それぞれ業務ビル・自動車・電機・家庭関連の企業とアライアンスを結ぶという設定で予算10億円の事業を考えた。そして“取締役会”と称したディベート大会の本番で事業提案を競わせた。また事業を考えるヒントを得るために、蓑原 敬氏・松下 傑氏による講演と実験住宅『COMMAハウス』の見学がおこなわれた。

2. ディベートの準備

ワークショップ初日、オリエンテーションと概要説明を終えると、早速グループに分かれディベート大会に向けた準備作業となった。著者は「自動車」グループに割り振られた。普段は家庭のエネルギー需給を研究対象としており、専門外の分野で事業を練ることに不安を感じつつグループの部屋へ向かった(グループ内に自動車の専門家はおらず、グループ内で知識に不均衡が生じないための配慮なのだと後に気付いた)。「自動車」グループは院生4人・社会人2人のメンバーに、ファシリテータの幹事2人の計8人で構成された。まずはアイスブレイクのために各自1分間の自己紹介をした。

表1 サマーワークショップ2014プログラム

| | |
|------|---|
| 9月1日 | オリエンテーション 「サマーワークショップ2014のねらい」 |
| | 幹事団による概要説明 |
| | 自己紹介，ディベート準備(政策立案) |
| | 講演； 「2020オリンピックに向けて東京の街づくりを考える」 (株)蓑原計画事務所 蓑原 敬 氏 「エネルギーデータを活用したスマートビジネス戦略」 (株)NTTファシリティーズ 松下 傑 氏 |
| | 見学； 東京大学生産技術研究所実験住宅 COMMA ハウス |
| 9月2日 | ディベート準備(戦略，プレディベート) |
| | ディベートの説明 |
| | ディベート準備 |
| | ディベート大会(準決勝) |
| | ディベート大会(決勝) ゲスト審査員； 蓑原 敬氏，中西 薫氏(東京都)， 小川芳樹氏(東洋大学)，木南陽介氏((株)レノバ) |
| | 全体総括 |

※灰色部分は、グループでの作業

つづいて「2020年の東京が求める自動車」をテーマに、顧客属性と車のスペックの2点でブレインストーミングをした。プレストの基本原則(批判をしない、自由奔放、質より量、連想と結合)の説明があったので、みな活発にアイデアを出すことができた。アイデアがたくさん出た後は、事業として有望なものを絞り込んで事業規模や収入源などを具体化する作業に入った。ここが一番の難所で、事業評価の要素(環境配慮、社会貢献、顧客満足度、株主価値)をすべて満足させるのに非常に苦労した。プレストの段階では夢のあるアイデアがどんどん作られたが、具体化の作業で一気に現実に引き戻された。事業提案を真剣に取り組まないと味わえない貴重な体験であった。

事業提案がある程度まとまった頃合いで、提案に対して賛成派と反対派に分かれてプレディベートをした。著者は反対派を担当し、自分たちの練り上げた事業を批判的に検

*東京大学大学院新領域創成科学研究科環境システム学専攻
博士課程
〒277-8563 千葉県柏市柏の葉5-1-5 環境棟461号
E-mail: ozawa@globalenv.k.u-tokyo.ac.jp

討することで多くの欠陥があることに気づかされた。プレディベートで浮かび上がった事業提案の穴を詰めていき、よりよい事業にブラッシュアップしていった。また、時間内に主張したり反論を考えたりする大変さを経験し、大会本番に向けた予行演習としても得るものが多かった。

3. 講演

初日の昼食後、株式会社葦原計画事務所都市プランナーの葦原 敬氏に「2020オリンピックに向けて東京の街づくりを考える」のテーマでご講演いただいた。まずは写真や絵画を通して東京の街並みの変遷を追いながら、「人間は生活場所の生態系・共同体・歴史的背景と調和しながら生きていかねばならない」という現代の私たちが失ってしまった価値観を確認していった。そして街づくりの実例(十津川村・銀座・幕張ベイタウン)を交えつつ価値観を取り戻すための都市計画的アプローチを学んでいった。講演を通して、東京再開発は五輪のためだけでなく、高齢化やCO₂削減などの問題解決も平行してなされねばならないことを強く意識するようになった。

つづいて「エネルギーデータを活用したスマートビジネス戦略」と題して、株式会社NTTファシリティーズ研究開発本部パワーシステム部門主任研究員の松下 傑氏にご講演いただいた。松下氏のご講演では、NTTファシリティーズが取り組んでいるエネルギー事業例が紹介された。数多くの事業を見ていくなかで、エネルギーにまつわるニーズを事業化し収益につなげるまでのプロセスを学んでいった。

4. 見学

講演の後は駒場リサーチキャンパス内に建設された実験住宅『COMMAハウス』をグループごとに見学した。これは『COMfort MAnagementハウス』の略で、2020年に普及するスマートハウスを目指し、省エネ機器・HEMS・可変の断熱性能が導入された実証実験設備である。見学の際は、東京大学生産技術研究所の岩船由美子准教授や共同研究先企業の担当者の方に機能を説明していただき、窓開閉や見守りサービスのデモンストレーションをしていただいた。省エネだけでなく居住者のQOL(生活の質)を重視した機能・サービスは、ディベート大会の事業提案のエッセンスと類似点があり、非常に勉強になった。

5. ディベート大会 準決勝・決勝

二日目、ディベートに関する説明と多少の準備時間の後、いよいよディベート大会の本番を迎えた。著者の所属

する「自動車」グループは初日の準備時間までに事業提案がまとまりきらず、二日目は朝早くに集合して事業の最終調整をしていった。さらに発表者の順番を決めて、発表練習もそこそこに本番に臨んだ。

準決勝の初戦、我々が「自動車」グループは「業務ビル」グループとの対決となった。ディベート大会は自分の提案を述べる「主張ラウンド」、相手の主張に反対意見を述べる「反論ラウンド」、相手から来た反論に言い返す「再反論ラウンド」の3ラウンド制で生まれ、ラウンド間にはグループ内で戦略会議がとられた。著者は主張ラウンドの発表者となり、事業提案を簡潔かつ印象的に伝えることに努めた。ワークショップではチャタムハウスルール(イベントで知り得た情報は他の場所で利用できるが、発言者の名前・所属およびその他の参加者の名前・所属については公表できない)が導入されており、参加者は立場に関係なく自由に主張・反論を繰り返していった。3ラウンドを終えた結果、残念ながら「自動車」グループは初戦敗退となった。事業内容よりもプレゼン力の評価で大差がついたのが敗因で、発表練習を十分にできなかったのが痛手となってしまった。

昼食後の決勝では、4人のゲスト審査員(葦原 敬氏、中西 薫氏、小川芳樹氏、木南陽介氏)が加わってより緊張感のある戦いとなった。「業務ビル」グループと「電機」グループによる激しいディベートの結果、「業務ビル」グループに軍配が上がった。代表幹事の藤野純一氏扮する商社“社長”より、優勝グループに景品、そして参加者全員に労いの言葉が贈られた。最後に世話人を務める東京大学工学系研究科の松橋隆治教授から全体総括をいただき、今年度のワークショップは締めくくられた。

6. おわりに

ワークショップに参加して3つの貴重な体験をすることができた。

第一に「東京2020」という具体的な設定をおいて考えることで、エネルギーに関してより深い学びができた。講演や見学にも目的意識をもって参加し、得るものが多かった。

第二にディベート大会は普段の研究活動では味わえない体験だった。グループで提案をまとめる作業、激しく主張と反論の応酬をする経験は大変であったが、社会にでる上での糧になると確信している。

第三に同年代で関心領域を共有する人々とのネットワーク形成に役立った。ワークショップは若手が主体的に参加できる貴重なイベントであり、今後も継続的に若手交流の機会がもたれることを期待したい。